

付録

コロナ禍の学校における教師の工夫

ワーク資料集

資料① 振り返りを通して教育相談を主体的に学ぶワーク

- ・教育相談についての普段使いのワークシート
- ・その子のめあてと私のめあて

資料② グループイメージデザイン法

- ・30分でできる！！グループイメージデザイン法

学校の非日常時における

「教育相談についての普段づかいのワークシート」

ワークシート見直しのねらい

「教育相談についての普段づかいのワークシート」は先生方の自己研修を意図したもので、振り返りの作業を通じて子どもとのかかわりについて前向きな気づきを得られます。

今回、災害や事故などが生じた、学校の非日常時に使っていただけるよう内容を見直しました。しかし振り返りの作業はエネルギーを要するに加え、非日常時に身体やこころは自覚を超えた疲れが生じて、振り返りから学びを得づらいつい状況になることも考えられます。作業中、反省やいら立ちなどが強く起こってくる時は、無理せず一度作業から離れ、状況が整ってから再度取り組んでください。

お急ぎで考えたいことがある際は、同僚や身近な専門家と話していただくのもよいかもかもしれません。また危機発生時の子どもの心身のケアについて具体的な方法を知りたい場合には、各種資料（文部科学省『学校における子供の心のケアーサインを見逃さないためにー』等）を参考にしてください。

教育相談班

ワークシートのすすめ方

- ▶ 『教師自身のチェックリスト』は、12個の問いかけに「はい・いいえ」を回答していくことで、ご自分の取組の姿勢を振り返っていくものです。
- ▶ 『「気になる子ども」の記述シート』は、気になる子どもにかかわる情報を記入していくことで、特定の子どものイメージを膨らませていくものです。
- ▶ まずは2種類のシート、それぞれの説明にしたがって、作業を行ってください。
- ▶ 各シートには解説があります。作業後に目を通すと、作業中に得たかかわりのヒントが、よりはっきりしてくると思います。
- ▶ 2種類のシートの片方だけを用いることも、同時に両方を用いることも可能です。
- ▶ 本ワークシートに記入された情報については、記入者の心の内面を守るため、また個人情報保護の観点から、その取り扱いに十分留意してください。また、記入済みのシートは適切に管理してください。

1. 教師自身のチェックリスト

【ねらい】

このチェックリストでは、これからのかわりをイメージすることで、非日常時の学校でも重要な教育相談的姿勢を確認していきます。プライベートに関連する内容もいくつか含まれてくるかもしれませんが、人に見せたり提出したりするためのものではありません。ご自身用の振り返り資料としてお使いください。

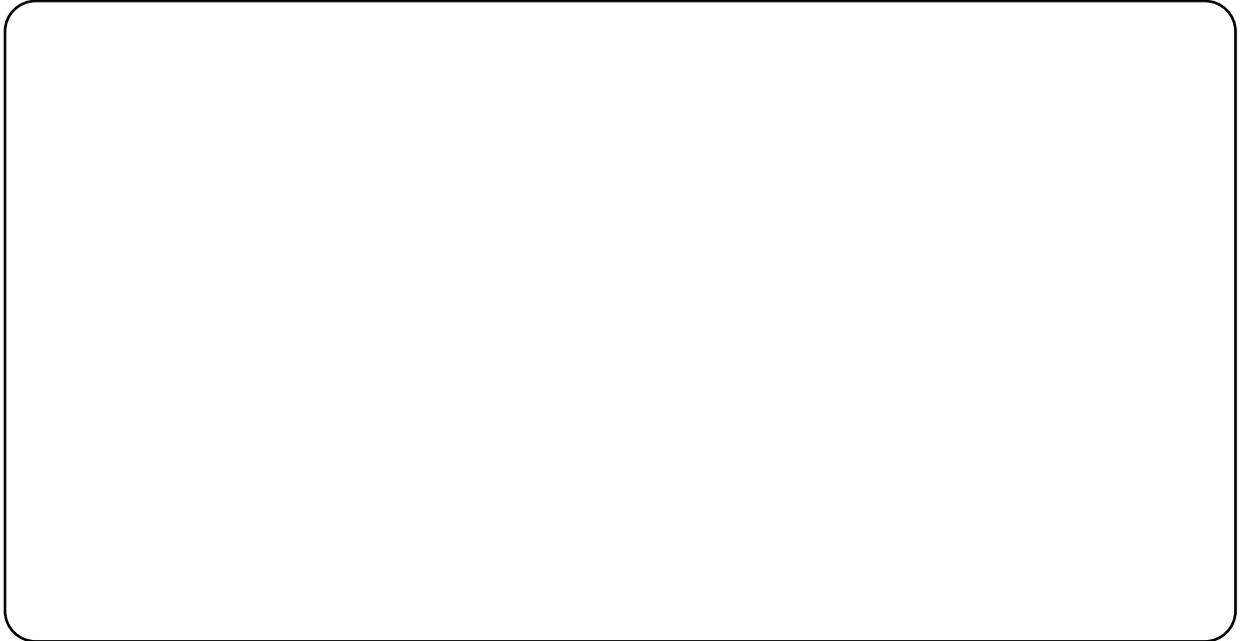
【1】 次の12個の項目について、この先、子ども達が普段の学校の日常を送れるようになった時に、ご自分がどんな取り組みをしていきたいかをイメージして、「はい・いいえ」に○をつけてください。全ての項目で「はい」に○がつくとは限りません。回答しながらご自分のこの先をイメージしてみてください。回答の際に思い浮かんだ連想は、必要に応じてメモ欄に書き留めておいてください。

	項目	チェック	メモ
1	子どもと雑談する。	はい ・ いいえ	
2	子ども同士の間人間関係を思い浮かべることができる。	はい ・ いいえ	
3	子どもの得意なことを思い浮かべることができる。	はい ・ いいえ	
4	放課後に子どものことを考える時間がもてる。	はい ・ いいえ	
5	学校の外での子どもの様子を考えることがある。	はい ・ いいえ	
6	子どもの意外な一面を発見した。	はい ・ いいえ	
7	子どもに秘密を打ち明けられることがある。	はい ・ いいえ	
8	子どもとかわるのが楽しい。	はい ・ いいえ	
9	説教するより子どもの話を聞くのが好き。	はい ・ いいえ	
10	子どものことで相談できる相手がいる。	はい ・ いいえ	
11	保護者と話す時に気が重い。	はい ・ いいえ	
12	私生活で自分の時間がとれる。	はい ・ いいえ	

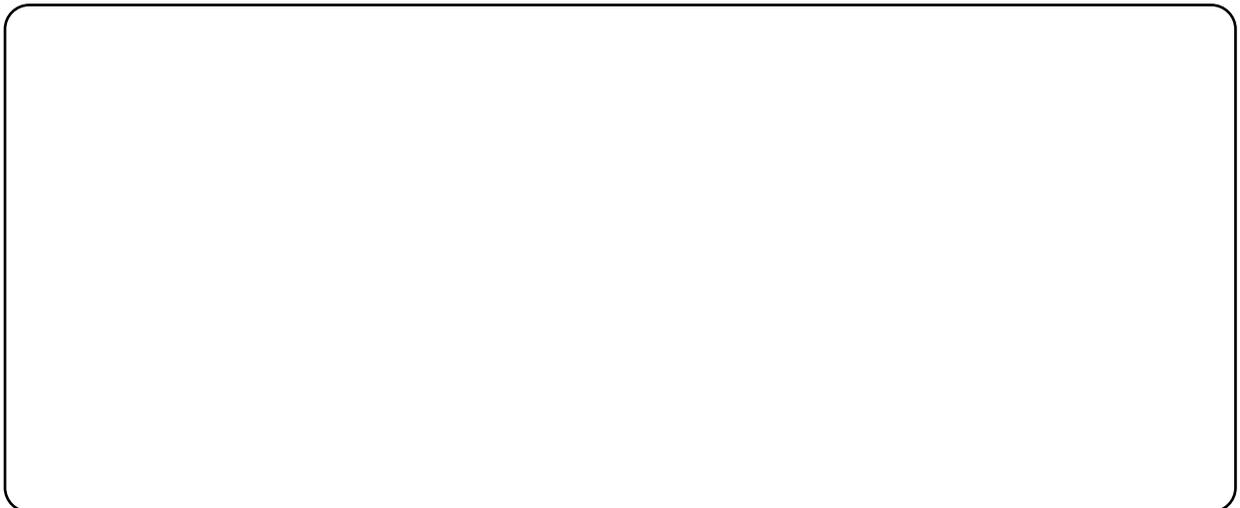
1. 教師自身のチェックリスト

【2】 12個の項目に「はい・いいえ」で答えていただきました。回答しながら思い浮かんだこと、あるいは今思い浮かんでいることを、以下の欄に自由に書き出してみてください。箇条書きでも文章でも構いません。内容の限定はせずに些細なことでも書ける範囲で書いてみましょう。

(例：休み時間、よく教室にいる〇〇のことが頭に浮かんだ。
／「はい・いいえ」を決めるのに迷った。…など)



【3】 上記の記入内容を踏まえて、現在、日常がゆらいでいる状況でも、やってみようと思うことを挙げてみましょう。心がけでも具体的な行動でも構いません。1つでも書いてみましょう。



お疲れ様でした。このシートを人に見せる必要はありませんが、振り返りの内容を、各自の手探りしている取り組みを認めあう姿勢で話し合うことから、学びがひろがります。

p.4 以降に【1】の各質問について解説を設けましたので、気になった項目に目を通してみてはいかがでしょうか。気持ちや時間に余裕をみて無理のない範囲でご活用ください。

2. 「気になる子ども」の記述シート

【ねらい】

この記述シートでは、気になっている子のイメージを膨らませていきます。シートに記入していただく内容は、個人の心の内面に深く関わるものです。シートの取り扱いにはご配慮ください。

はじめに、ご自分にとって「気になる子ども」を一人思い浮かべてください。その子どもについて、以下のそれぞれの欄に記入して行ってください。いずれの欄も、分かる範囲での作業を進めてください。特に子どもと直接のかかわりを持ちづらい状況で記入しづらい欄（「印象的なエピソード」など）は埋まらなくて構いません。

その子のことが気になった理由は何ですか？		
学年	性別	家族構成について
その子とあなたの関係 (例：担任、養護教諭)		
これまでの育ちの様子について		
どんな子ですか？(外見的特徴・服装など)		どんな子ですか？(印象)
好きなこと	得意なこと	仲のいい子
嫌いなこと	苦手なこと	仲の悪い子
その子についての印象的なエピソードを書いてみましょう。(あなたとのやりとりや誰かとのやりとり、一人で過ごしているときの様子、そのときの表情、それについてあなたはどのように感じるか、など)		
その子が今後どうなってくれるといいなあと思いますか？		
このシートを書いてみて、その子について気づいたことがあれば、書いてみましょう。		

解説ページが p.6 に設けてあります。各欄のねらいを知りたい方はご覧ください。



シート1の各質問について解説を設けました。それぞれの質問項目で振り返った姿勢は、どのような意味をもっているかが書かれています。回答したときの気持ちも思い出しながら、読み進めてください。

1 子どもと雑談する。

雑談はつながりの雰囲気醸し出す、関係を育む機能を持ちます。雑談を通して子どもの興味関心について多くのことが見えてきます。

「雑談しかできない」ではなく「雑談だけでも大切」という意識でその時間を大切にしましょう。雑談ができない時は、子ども同士の雑談に耳を傾けてみるのもいいでしょう。

2 子ども同士の間人間関係を思い浮かべることができる。

子ども同士の間人間関係は、心の発達にとって重要で、その子らしさがあらわれています。今見えている人間関係を手掛かりにその子らしさを考えてみるのもいいですし、いつもと違う非日常時は子ども同士の新しい人間関係を紡ぐきっかけになるかもしれません。

3 子どもの得意なことを思い浮かべることができる。

得意なことは「好きなこと」や「楽しい気持ち」につながります。好きなこと、楽しい気持ちを話すことは、教師と子どもの間に安心して過ごせる時間や関係を作り、子どもの自信を育む土壌となります。非日常時の生活は窮屈だったり、不便だったりしやすいですが、そんな時こそ楽しいと思えること、普段好きだったことを大切にしましょう。余裕があれば教師と子どもで楽しい時間や話題を共有できるといいですね。

4 放課後に子どものことを考える時間がもてる。

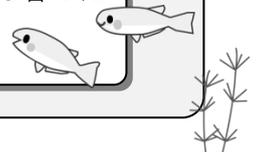
放課後、目の前に子どもがいなくても、落ち着いて子どものことを考えることができます。非日常時の学校では放課後も時間に余裕がなくなるかもしれませんが、何か作業をしながら今日の出来事を思い出してみてもいいでしょう。意識的に少しだけ手を止めてぼんやり子どもの姿を思い浮かべる時間も大切です。

5 学校の外での子どもの様子を考えることがある。

子どもたちの経験は、良きにつけ悪きにつけ子どもたちに影響を及ぼします。非日常時は特に、学校外での様子を把握する必要性が生じることがありますが、情報の把握という意図だけでなく、学校の外で子どもたちがどう過ごしているんだろうと関心を向けることそのものが、子どもたちの成長の原動力や見守られている安心感につながります。

6 子どもの意外な一面を発見した。

子ども理解のプロセスは、分からない面に気づくことから始まります。特に非日常時の子どもは、普段捉えていた姿と違った面を見ることがあります。そのような意外さは、子どもたちが持つ力（回復する力・生き抜く力）や、見えにくかった傷つきへの気づきにつながります。「分からない」ことが、子どもについて考えたり、他の教師や専門家と話し合ったりすることのきっかけになるのです。



7 子どもに秘密を打ち明けられることがある。

子どもが秘密を持つことは、発達的にも心理的にも、自分作りの大切な指標です。秘密の内容は他愛もないように聞こえても、打ち明ける本人にとっては多大な勇気や教師への親愛の情を必要とします。特に非日常時には、気持ちを抱えておくための「心の器」が揺らぎやすくなります。そうすると、しんどさを抱えきれなくなったり、普段ならば秘密にしていたことも誰かに言いたくなったりして、教師に秘密を打ち明けることがあります。それを丁寧に聴く姿勢を示すだけでも、その子にとっては安心感につながるのです。

8 子どもとかかわるのが楽しい。

教師が心を自由に動かしながら子どもたちとかかわることは、子どもたちに自分で考える力を伸ばすための貴重な機会を与えます。ただ、非日常時には特に、子どもたちとのかかわりに、楽しさを見いだせないことも起こりえます。そんなときは、無理に楽しまなければいけないと思わず、自分の時間を大切に、心に余裕をつくることも大切です。

9 説教するより子どもの話を聞くのが好き。

教師の職務上、子どもに助言や指導をすることは避けられません。一方で子どもにとっては話を聞いて受け入れてもらうことが、自己肯定感や信頼関係の土台になります。

非日常時の学校では子どもの安全を確保するため、普段以上に細かな指導が必要となります。そうした中でも機会があれば、子どもの発するたわいもない話に耳を傾けてあげましょう。

10 子どものことで相談できる相手がいる。

子ども理解に困った時、本や研修にヒントを求めることがあります。一方で、困難を職場の創意工夫で乗り越えていく時には、普段からの先生同士の人間関係が役立ちます。

非日常時の状況を一緒に乗り越えていくことで、職員間に新たな人間関係が生まれることがあります。それぞれの教師が今、何に問題を感じているか想像力を働かせてやりとりしてみましょう。

11 保護者と話す時に気が重い。

保護者からの要請を、教師が自身の指導への批判と感じることがあります。一方で保護者の方でも、教師とのやりとりに身構えることがあります。

保護者と学校の双方が非日常にある時には、連絡をとりあうタイミングも難しいのではないのでしょうか。子ども達に安全を確保するため、可能な限り保護者との間で協力関係を築くことを目指しましょう。

12 私生活で自分の時間がとれる。

よりよい対人援助のため、先生自身が仕事の中でいきいきしていることが大切です。そのためには、いきいきできる仕事外の活動が重要です。

仕事外の活動は非日常時にも重要ですが、普段のような活動が難しくなることがあります。許される範囲で、ご自身の身体とこころの休息に結び付くような活動を行っててください。



シート2について、個々の項目ではなく、大きなくりごとに、解説を設けました。その子についての理解がどう深まるかのヒントになっています。

「気になる子ども」は、必ずしも「問題・課題を呈している子ども」を意味しません。なんとなく心に引っかかるという程度かもしれませんし、好感からかもしれません。

どんな子でも、「気になる」理由を考えてみることは、その子と自分との関係を振り返り、その子のこれからの成長を考えるきっかけになります。

学年			性別			家族構成について		
その子とあなたの関係 (例：担任、養護教諭)			<p>基礎的な情報をもとに教師の中でのその子をまとめるパートです。その子の背景となる家族歴や生育歴に続いて、現在のその子をどうとらえているかを書き込む項目が並んでいます。</p> <p>わからないこと、埋まらない項目があってもかまいません。これから知っていくこと、意識してみることで、無理のない範囲で頭に置いておかれるといいでしょう。</p>					
これまでの育ちの様子について								
どんな子ですか？(外見的特徴・服装など)				どんな子ですか？(印象)				
好きなこと			得意なこと			仲のいい子		
嫌いなこと			苦手なこと			仲の悪い子		
その子についての印象的なエピソードを書いてみましょう。(あなたとのやりとりや誰かとのやりとり、一人で過ごしているときの様子、そのときの表情、それについてあなたはどうか感じるか、など)								
<p>エピソードを思い浮かべるだけでなく書き出すことで、その出来事から少し距離をとって眺めることができるようになります。</p> <p>その子について一人で考えるのが難しくなった時は、作業から一度離れたり、その時感じたことを身近な専門家に話してみてください。</p>								
その子が今後どうなってくれるといいなあと思いますか？								
このシートを書いてみて、その子について				<p>その子について一度、改めて自分が気になっていたことを書き出したり、まとめてみたりすると、それまでとは少し違った角度からその子が見えてくることがあります。</p>				

※原版はホームページ (<http://www.mpec.jp/wp-content/uploads/2017/fdukai.pdf>) に掲載しています。普段の振り返りにはこちらをご活用ください。

【ねらい】

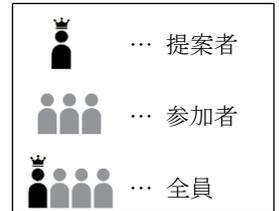
自分の経験にてらして、提案者の思いや困りに思いをはせる。
1つの原因にこだわらず、様々な面から子どもをとらえる。

STEP I これまでのわかちあい (20分)

I-1 その子のこれまでをわかちあう (12分)  → 

【提案者】記述シートの『印象的なエピソード』までを共有する。(7分)

【参加者】その子について質問して理解を深める。(5分)



☆その子についてメモしましょう。

I-2 思いによりそう (8分)  → 

【参加者】I-1 と似た困った状況について発表する。(2分ずつ)

☆チェックリストや記述シートをしていた時の気持ちを思い出して、発表してみましょう。

例:「私の気になる子も、友達と…」 「私も、子どもの秘密をきいて…」

【提案者】あらためて困ったことや気になることを発表する。(2分)

☆提案者の困った(気になる)ことは…

STEP II 『どうなってくれるといいな』(20分)

II-1 子どものめあてを分かちあう (10分)  →  → 

【参加者】【A】にその子が『どうなってくれるといいな』と思うか書く。(2分)

【参加者】順番に【A】を共有台紙に出して説明する。(1分ずつ)

☆その子について、自分がどう感じるか率直に言葉にしてみましょう。

【提案者】発表を聞いて『どうなってくれるといいな』と思うか【A】に書いて出す。(1分)

【全員】それぞれの意見を分かちあう。(4分)

II-2 この先のかかわりを思いえがく (10分) 

【全員】【B】にその子に『どうかかわりたいか』を書いて、共有台紙で分かちあう。(8分)

☆「信頼関係を築きたい」などの目標でも構いません。提案者とその子との関係で想像するか、
普段の自分の立場で考えてみましょう。

【全員】一言ずつ、子どもと自分のかかわりで気付いたことやSTEP I, IIの感想を発表する。(2分)

『その子のめあてと私のめあて』 カード共有台紙

☆ワーク終了後は各カードを貼り付けて、台紙ごと提案者に渡します。

心得

・このワークでは、提案者の気になる子について、カードを使って一緒に振り返りながら、その子のめあてと、それぞれがどうかかわりたいかを考えます。

・それぞれの考えに正解はありません。様々な意見を聞いて、視野を広げることが目的です。

・メモ欄には自由にメモをできますが、個人情報の取り扱いに注意しましょう。

カード【A】子どものめあて（個人シート④、⑤）

カード【B】この先のかかわり（個人シート⑥）

【ねらい】

自分の経験にてらして、提案者の思いや困りに思いをはせる。

1つの原因にこだわらず、様々な面から子どもをとらえる。

STEP I これまでのわかちあい (20分)



… 提案者

I-1 その子のこ

【提案者】記

【参加者】そ

☆その子について

その子の理解を深めて、その子に対するイメージをあたためるための時間です。グループのメンバーは、自らの経験や感覚に照らしたり、その子と関わる提案者の姿に想像を巡らしたりして、提案者の思いに共感しながら聴いてみましょう。



グループワークでは、その子の情報をくまなく把握することより、提案者を通じた子ども理解の共有を大切にしました。

提案される内容について、自分がこれまでかかわってきた子どもを浮かべながら、様々な思いえがく姿勢は、グループと一緒に考えるための土台を作ります。

また提案者は、その子について今回のワークでつかみきれなかったことを、これから知りたいこととして注目しておきましょう。

I-2 思いにより

【参加者】 I-1 と似た困った状況について発表する。(5分ずつ)

☆チェックリストや記述シートをしていた時の気持ちを思い出して、発表してみましょう。

例：「私の気になる子ども、友達と…」 「私も、子どもの秘密をきいて…」

【提案者】 あらためて困ったことや気になることを発表する。(2分)

☆提案者の困った(気になる)ことは、

その子の今の課題を確認し、今後の可能性を見出す時間です。さらに、その子の成長のために自分ができるかかわりについて考えます。その子の現状からかけ離れた目標とならないように注意しましょう。また、自分と違う意見も受け止めながら、その子とのかかわりの可能性を広げてみましょう。

STEP II 『どうなっ

II-1 子どもの

【参加者】 【A】にその子が『どうなってくれるといいな』と思うか書く。(2分)

【参加者】 順番に【A】を共有台紙に出して説明する。(5分)



【提案者】 『どうなってくれるといいな』にはメンバーそれぞれの視点が現れます。

何かが原因とか、だれかの意見が正解というのではない、それぞれの感覚が活きた視点からの子ども理解に触れるうちに、自分の視野が広がり、子ども理解が深まったのではないのでしょうか。また今回の話し合いに活かしきれなかった感覚も、

いずれ新たな気づきに至る種として、大切に温めておきましょう。

II

普段の自分の立場で考えての

関係で想像するか

【全員】 一言ずつ、子どもと自分のかかわりで気付いたことやSTEP I, IIの感想を発表する。(2分)

30分でできる！！グループイメージデザイン法 活用ガイド

～気になる子どもについてみんなで考える機会にしよう！～

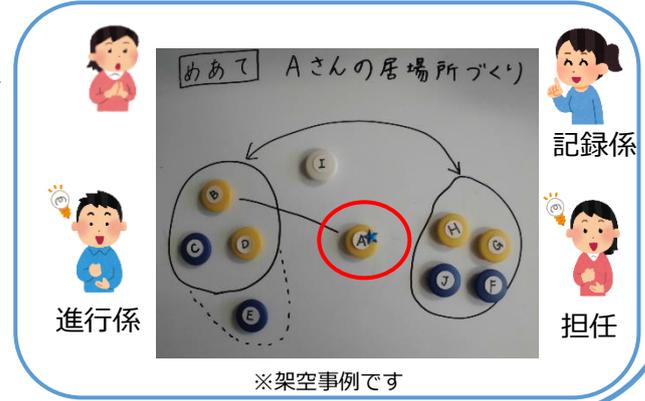
グループイメージデザイン法とは

気になる子ども（Aさん）について

- ・教職員間で情報を共有したい…
- ・仲間づくりをすすめたい…



気になる子どもを取り巻くグループイメージ（人間関係）を図に表し、その子どもに関わる教職員同士で話し合い、グループイメージ理解を深めよう！



必要なもの

- ・カラーマグネット
（3色程度、20個ほど）
- ・白丸シール（20枚ほど）
- ・ホワイトボード
- ・ホワイトボードマーカー
（黒、赤、青など）
- ・カメラ

これでキャラクターマーカーを作ります。



子どもや大人に見立てて、ホワイトボード上に置くことでグループイメージ（人間関係）を表現します。

※キャラクターマーカーは身近にあるものを利用して作ってもかまいません。

参加者

『担任』：気になる子どもと主に関わる教員。

『進行係』：気になる子どもと主に関わる教員以外で、かつ全体を見渡せる教員がよいでしょう。進行係が進行係用マニュアル（別紙）をもとに進めます。

『記録係』：ホワイトボード上に参加者の意見をもとにグループイメージ図を作ります。

『気になる子どもと関わる教員』：5人程度。それぞれ知っている情報を出し合いながら全員で考えていきましょう。

グループイメージデザイン法の手順

全体の流れは以下の通りです。具体的には『進行係』が進めていきます。

0. 事前準備

- ・『担任』『進行係』『記録係』を決めて、道具の確認をしておきましょう。
- ・『担任』『進行係』でグループデザイン法のためあてを考えておきましょう。

1. はじめに

- ・今回のグループイメージデザイン法のためあてを共有しましょう。
- ・グループイメージデザイン法はキャラクターマーカーを子どもたちや大人たちに見立て、ホワイトボード上に気になる子ども（○さん）を取り巻く人間関係をグループイメージ図にあらわします。そのグループイメージ図をもとに○さんの人間関係について話し合うことで理解を深める方法です。
- ・約束事として、これまでのことやできなかったことについて非難しないこと、できるだけ全員が発言することを守りましょう。

2. グループイメージ（人間関係）図づくり（15分）

- ・キャラクターマーカーの作り方：マグネットの上に子どもや大人の名前を書いた白丸シールを貼り、子どもや大人に見立てて作ります。
- ・グループイメージ図の作り方：ホワイトボード上にキャラクターマーカーを自由に置いたり、かかわりを書き込んだりすることで人間関係を視覚的に表します。
- ・グループイメージ図を書き込むときの例
(関係の記入の仕方のひとつの例であって、こうしなければならないというわけではありません。表現しやすいように自由に記入してください。必要な情報は言葉で記入しましょう。)

- 棒線：個人間やグループ間の関係を表す。

===== : 強い結びつき

————— : 通常結びつき

----- : 弱い結びつき

←————→ : 対立関係

————→ : 一方的なかかわり

- 実線による丸囲み：結びつきが強いグループ

点線による丸囲み：結びつきが弱いグループ など

- ・〇さんの人間関係について参加者全員でできるだけたくさんのお情報を出しましょう。
『記録係』以外が情報を書き込んでかまいません。

- ① 〇さんと仲の良い児童生徒
- ② 〇さんとよくトラブルを起こす児童生徒
- ③ 〇さんの家族について
- ④ 〇さんの人間関係について共有しておきたい情報

3. グループイメージ図の共有（3分）

- ⑤ できあがったグループイメージ図を見て感じたことや気づいたことをみんなで共有しましょう。

4. 心情の想像（5分）

- ⑥ 〇さんや〇さんのまわりの人々の気持ちを想像し、話し合しましょう。

5. 支援方針（7分）

- ⑦ まわりの人々と関わるうえで〇さんのよいところ
- ⑧ 〇さんやまわりの人々にとって必要なこと
- ⑨ 必要な支援について、どのようなことをいつ、だれがするか

6. おわりに

- ⑩ グループイメージ図を写真に残しましょう。
- ⑪ 『担任』の感想をまとめとします。

行ってみた感想やご意見をお聞かせください。

三重県総合教育センター 研修企画・支援課 教育相談班

グループイメージデザイン法研究会

電話：059-226-3516・3728 Fax：059-226-3706

